

研究テーマ

在宅看護の看護展開に関する研究

研究室の紹介

当研究室では在宅看護に関する研究を行います。在宅看護学は比較的新しい分野のため研究課題は多様で、在宅看護を主導する訪問看護や看護職と介護職の連携、家族介護に関すること等幅広く存在します。在宅看護を科学的に裏付けられた学問へ発展することを目指して共に研究しましょう。

主な研究テーマ

- 訪問看護の看護過程に関する研究
- 訪問看護師のセクシュアリティに関する研究

主な担当講義科目

実践看護学特論Ⅰ・Ⅱ、実践看護学特論演習Ⅰ・Ⅱ、看護理論特論、特別研究

研究紹介

○これまで慢性疾患が安定した在宅療養生活が続くことができるように訪問看護の標準化を図るためにケアプログラムの開発、アクションリサーチを導入した業務改善など看護実践に根差した研究課題について取り組んできました。

○現在は訪問看護の看護過程に関する研究を行っています。看護は、これまで対象の疾患や障害を問題としてとらえて看護展開を行う問題解決型志向モデルが活用されてきました。在宅でも同様のモデルに基づいて看護を行ってききましたが、病院や施設と異なり生活の中で看護を進めるため限界がありました。つまり在宅では対象を疾患や障害を有している生活者としてとらえ、その人の価値観や目指したい生活を営むことができるように目標指向型の看護が求められます。そこで看護展開のパラダイムシフトが可能な国際生活機能分類

（International Classification of Functioning；以下ICF）に基づいたモデルを導入し、在宅看護の質の向上を目指したいと考え、検討しています。

○訪問看護師は高齢者を中心に、あらゆる年代を対象に生活の質を高めることを目指して支援しています。その対象者の疾患や障害も様々です。訪問看護師が関わる期間も長く療養者の人生に深く関わる立場にあります。性は全ての人間がもつ基本的欲求の一つであることから、セクシュアリティは全人的な看護ケアのためには重要な位置づけにあり、対象者の生きる意欲やQOLを高めるために欠かすことができない視点です。訪問看護師が遭遇した療養者のセクシュアリティのケアニーズに対する受けとめ、およびその対応について明らかにする研究を行っています。

大学院進学を希望する方へ一言

超高齢社会が到来し、地域包括ケアシステムを構築する上で、在宅看護は注目されています。日頃、抱いている疑問を大切に、研究の楽しさや充実感を実感できるように指導していきたいと考えています。また院生が学びやすいように環境への配慮もします。皆さんのチャレンジをお待ちしています。

これまでの院生の研究テーマは「へき地の壮年期家族介護者が抱く精神的・社会的負担」「指導看護による喀痰吸引に関わる介護職への継続教育に関する研究」です。